

財務大臣

麻 生 太 郎 様

福岡空港滑走路増設の早期事業化等に関する
要 望

平成26年2月16日

福岡空港滑走路増設等整備促進期成会

会 長 末 吉 紀 雄

福岡空港は、全国各地に25路線、国際線ではアジア各都市を中心に、ヨーロッパ直行便を含む20路線と、多様な路線網を有しております。また、平成24年度旅客数は約18百万人と羽田、成田に次いで国内第3位の実績を誇り、経済波及効果は年間約8千億円など、九州・西日本地域の経済や交流を支える中核的拠点空港であり、国管理空港28空港の中でも、羽田に次ぐ重要な役割と位置づけを持った空港であります。

このような実績と重要な役割を持った福岡空港であるからこそ、15年度から20年度にかけて、国・福岡県・福岡市一体となって、P1（パブリックインボルブメント）手法により多くの市民の参加も得ながら、総合的な調査を行い、滑走路増設を決定し、現在環境アセスメントを実施しているところであります。

そのような中で、福岡空港の発着回数は当初予測より早く、円滑に離着陸できる滑走路処理容量14.5万回を超え、24年の発着回数14.9万回、25年はさらに増加する見込みであり、航空機の混雑や遅延の常態化、国内外の都市から乗り入れ要望があるのに路線が入り込めないといった状況に置かれております。

この状況が長期に及べば、利用者の利便性は大きく損なわれ、国内外のヒト・モノ・文化・学術などの交流に大きな悪影響を及ぼし、アジアの交流拠点都市としての役割を果たせなくなるとともに、福岡・九州の経済の活性化、さらには国としての経済成長にも少なからず影響を与えられと考えられます。

福岡空港においては、このような増大する航空需要に対応する能力を確保し、経済・交流の活性化を図っていくため、滑走路増設と平行誘導路二重化の一刻も早い整備が、喫緊の課題であることはいうまでもありません。

国におかれましては、福岡空港の重要性を十分に認識されると同時に、高い位置づけを行っていただき、平行誘導路二重化の早期完成に取り組むとともに、特に次の事項について、強く要望いたします。

- 1. 滑走路増設について、環境アセスメント終了後の速やかな事業着手**
- 2. 滑走路増設等について、国の責任における十分な予算の確保**